

講義録レポート

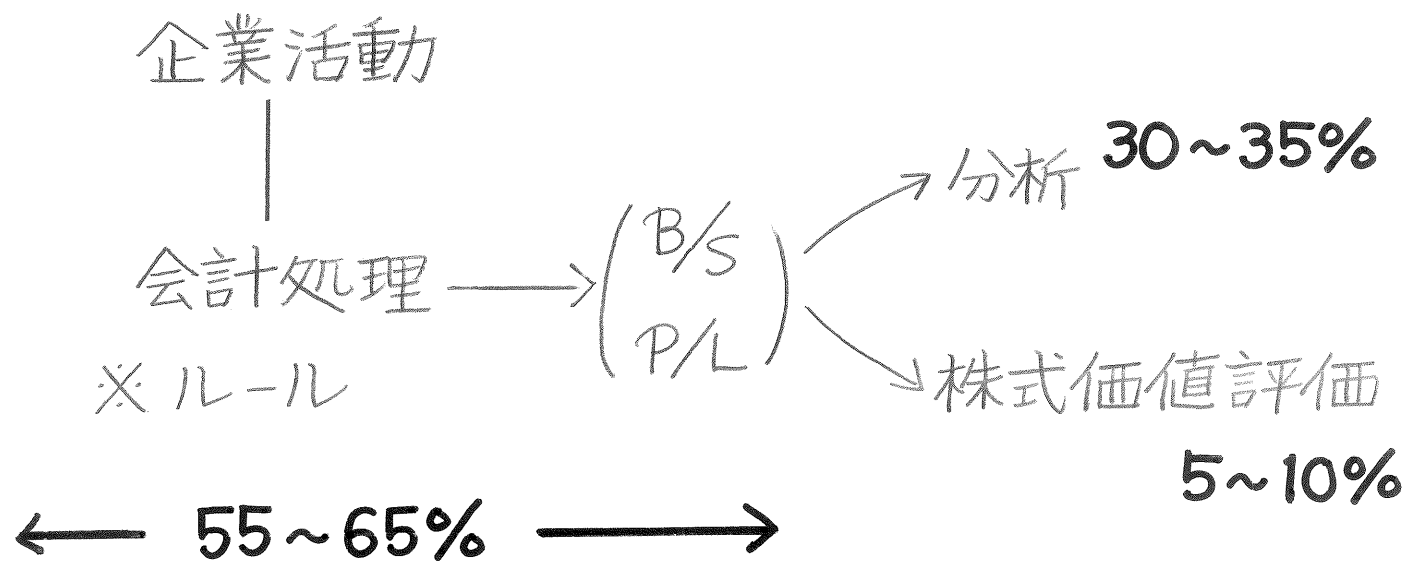
講 座	証券アナリスト	科目①	財務分析
目標年		科目②	
コース	1次秋試験向け 3科目横断実践セミナー	回 数	1 回
収録日	2015 年 5 月 20 日		
講師名	谷口 先生	講義録 枚数	1 枚 ※レポート 含まず
		補助資料 枚数	3 枚 ※表紙含む
講義構成	講義 (30) 分		
使用教材	①		
	②		
	③		
	④		
配布物	有 . 無		
	①		
	②		
	③		
正誤表	有 . 無	枚	
備考			

証券アナリスト	講義録	コース・講義等	3科目横断 実践セミナー	科目	財務分析	回数	
---------	-----	---------	-----------------	----	------	----	--

配布物	★テスト類： []	★その他の配布物1： []	★その他の配布物2： []	講師	谷口 先生
-----	------------	----------------	----------------	----	-------

黒板内容

○学習の範囲



(1次) 財務分析

1. 出題分析 (全体)

全問マークシート方式の選択問題で、解答数は60問弱となっています。60%以上の得点を効率よく積み重ねるためには、出題傾向が安定している第4問の財務分析問題で、まとまった得点の確保を目指す必要があると思われます。また、第1問の正誤選択問題は、第2問、第3問の計算問題（会計処理等）の知識から正答を得られるケースも多いため、相互に関連付けた学習が効果的でしょう。

図表：財務分析大問別の配点

	H24 春	H24 秋	H25 春	H25 秋	H26 春
第1問 正誤選択問題	34	34	34	34	34
第2問 計算問題	12	12	12	12	12
第3問	18	18	18	18	18
第4問 財務分析問題	26	26	26	26	26

計 90 点

2. 大問別出題分析

(1) 第1問 正誤選択問題

正誤選択問題では、特定の分野に偏ることなく幅広い出題が見られます。出題範囲すべての習得は負担が大きいため、まずは頻出論点の習得を優先させてください。

平成 26 年春 (34 点)	平成 26 年秋 (34 点)	平成 27 年春 (34 点)
①情報開示	①制度会計	①開示制度
②公認会計士による監査	②貸借対照表	②連結財務諸表
③損益計算書	③CF計算書	③包括利益
④株主資本	④剰余金の配当	④会計方針・表示方法の選択
⑤CF計算書	⑤新株予約権	⑤費用収益の対応
⑥包括利益	⑥収益の認識基準	⑥自己株式
⑦収益	⑦デリバティブ会計	⑦収益の認識基準
⑧有価証券の評価	⑧棚卸資産の原価配分	⑧金融商品
⑨棚卸資産の評価	⑨費用	⑨費用の認識
⑩有形固定資産の減価償却	⑩減価償却	⑩棚卸資産の原価配分
⑪減損会計	⑪負債会計	⑪保守的な会計処理
⑫費用の見越・繰延	⑫企業結合会計	⑫棚卸資産
⑬リース取引	⑬連結財務諸表	⑬減損会計
⑭企業結合	⑭連結の会計処理	⑭リース取引
⑮外貨換算会計	⑮外貨換算会計	⑮退職給付会計
⑯税効果会計	⑯株主に帰属するFCF	⑯税効果会計
⑰DCFモデル	⑰配当割引モデル	⑰資本連結

(2) 第2問 個別計算問題

繰り返し出題される論点も多く、過去の出題と同様の計算手順で解答できる問題も多いため、特に過去の出題論点の反復練習が有効です。

平成 26 年春 (12 点)	平成 26 年秋 (12 点)	平成 27 年春 (12 点)
問 1 先物取引	問 1 包括利益	問 1 製品製造原価
問 2 製品製造原価	問 2 株主資本	問 2 棚卸資産の評価
問 3 事業譲受	問 3 その他有価証券	問 3 貸倒見積高の算定
問 4 資本連結	問 4 ROE (3 指標分解)	問 4 外貨建取引の換算
問 5 退職給付会計	問 5 株主に帰属する FCF	問 5 退職給付会計
問 6 損益分岐点分析	問 6 残余利益	問 6 課税所得の計算

(3) 第3問 総合計算問題

第3問の総合計算問題は、第2問に比較し難易度が高いものもあるため、解法の不明な問題等に深入りしない注意が必要です。ただし、設問の全ての難易度が高い訳ではないため、容易に解答可能な論点は積極的に解答する必要があります。

平成 26 年春 (18 点)	平成 26 年秋 (18 点)	平成 27 年春 (18 点)
I 減価償却 問 1 減価償却累計額 問 2 減価償却費 問 3 帳簿価額	I リース会計 問 1 支払利息 問 2 リース資産の減価償却 問 3 オペレーティング・リース取引	I 先物取引 問 1 買建時の会計処理 問 2 決算時の会計処理 問 3 決済時の会計処理
II 純資産会計 問 1 株主資本 問 2 資本剰余金 問 3 包括利益	II 企業結合会計 問 1 のれん 問 2 少数株主持分 問 3 利益按分	II 減価償却 問 1 級数法 問 2 定率法 問 3 200%定率法
III 株式価値評価 問 1 配当の予想額 問 2 残余利益の予想額 問 3 株式の内在価値	III 退職給付会計 問 1 退職給付債務 問 2 割引率 問 3 退職給付費用	III 株式価値評価 問 1 FCFE の予想額 問 2 残余利益の予想額 問 3 株式の内在価値

(4) 第4問 分析総合問題

分析総合問題は、1 次試験の全配点の 30%弱を占めており、その出来不出来が合否に直結すると考えられます。収益性分析と安全性分析を中心とした出題で、出題される財務指標も安定しているため、正誤選択や計算問題よりも、得点を伸ばしやすいと言えます。ただし、問題文や財務諸表など与えられる資料が非常に多いことから、限られた時間で効率よく解答を導き出すための対策が必要となります。

具体的な対策としては、過去の問題等を使用した、定期的な反復練習が有効となります。繰り返し問題を解く中で、基本テキスト等を活用し、頻出の財務指標を中心に、その計算式とそれぞれの指標が意味する内容の習得を図ってください。適切な財務指標の選択を素早く行うためには、それぞれの財務指標の意味する内容を知っている必要があります。また、財務諸表から必要な数値を素早く取り出すためには、計算式を正確に記憶していることが必要です。

正確さに加え速さも要求されていることを念頭に、準備を進めることが重要です。

平成 26 年春 (26 点)	平成 26 年秋 (26 点)	平成 27 年春 (26 点)
(連結、クロス、自動車)	(連結、時系列、陶器製造業)	(連結、時系列、自動車)
(1) 資本利益率 ROE (3 指標分解)	(1) 資本利益率 ROA (2 指標分解)	(1) 資本利益率 ROA (2 指標分解)
(2) 売上高利益率の分析 百分率損益計算書	(2) 売上高利益率の分析 百分率損益計算書	(2) 売上高利益率の分析 百分率損益計算書
(3) 資本回転率等の分析 手元流動性比率 売上債権回転期間 棚卸資産回転期間 有形固定資産回転率	(3) 損益分岐点分析 変動費率 固定費額 損益分岐点比率	(2) 損益分岐点分析 変動費率 損益分岐点比率
(4) 経営資本営業利益率 金融活動資本 未利用資本 営業利益	(4) 資本回転率等の分析 売上債権回転率 棚卸資産回転率 有形固定資産回転率 手元流動性比率	(3) 資本回転率等の分析 売上債権回転率 棚卸資産回転率 有形固定資産回転率 手元流動性比率
(5) 安全性分析 当座比率 自己資本比率 固定比率 インタレスト・カバレッジ・レシオ	(5) 安全性分析 当座比率 自己資本比率 固定比率 インタレスト・カバレッジ・レシオ	(5) 安全性分析 流動比率 自己資本比率 固定比率 インタレスト・カバレッジ・レシオ